

**発達障がいの特徴をもつ  
中高年のひきこもりの相談ができる  
支援機関ガイド**



## 【相談できる支援機関】

※ケースによって異なることがありますので、詳細は直接お問い合わせください。  
裏面の【相談の流れについて】もご参照いただけますと幸いです。

## 「ひきこもり」という観点から家族や本人が相談したいとき

### ■ 札幌市ひきこもり地域支援センター（こころのリカバリー総合支援センター内）

（家族相談可、出張相談あり、訪問可、診断不要）

ひきこもりの状態にある本人やその家族等からの電話・来所等による相談に応じ、適切な助言を行うとともに、必要に応じて家庭訪問を中心とした訪問型の支援にも対応します。また、相談内容に応じて、医療・保健・福祉・教育・就労等の適切な関係機関へつなぐことで、ひきこもりの状態にある本人の自立を促進します。

[https://www.city.sapporo.jp/kodomo/ikusei/hikikomori\\_center.html](https://www.city.sapporo.jp/kodomo/ikusei/hikikomori_center.html)

## ひきこもり若年層（15歳～39歳）への支援をしてほしいとき

### ■ 札幌市若者支援総合センター（Youth+センター）

（家族相談可、訪問応相談、家族相談可）

若者支援総合センターには、引きこもりやニートなど社会生活を円滑に営む上で困難を有する若者に対する総合相談窓口を設置しています。また、若者支援総合センター内に「若者サポートステーション」を設置し、15歳から40歳未満の若者の職業的自立を支援しています。就職に向けた個別相談サポートや協力企業での仕事体験などを行います。

<https://www.city.sapporo.jp/kodomo/ikusei/youth/link/index.html>

## 福祉サービスの調整を中心に

## 地域生活全般について相談したいとき

### ■ 札幌市障がい者相談支援事業所（通称 委託相談）

障がいのある方や、その家族の生活や支援に関する相談に応じるとともに、関係機関との連携の下、障がいのある方の身近な地域において、安心して生活できる地域の支援体制をつくることを目的とします。

<https://www.city.sapporo.jp/shogaifukushi/syurou/soudankikan4.html>

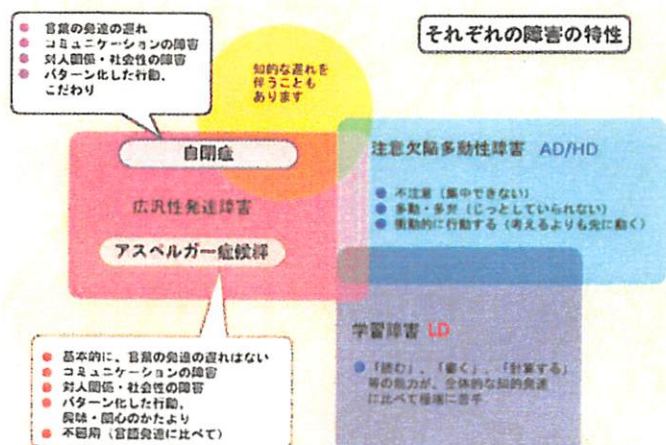
## 障がいのある方の就職に関して相談したいとき

### ■ 札幌市障がい者就業・生活相談支援事業所（通称 ナカポツ）

障がいのある方々の職業生活における自立を図るため、雇用、保健、福祉、教育等の地域の関係機関との連携の下、障がいのある方の身近な地域において就業面及び生活面における一体的な支援を行います。

求職活動の支援、就労されている方が働き続けられる支援を行います。仕事の紹介や斡旋は行っていません。

<https://www.city.sapporo.jp/shogaifukushi/syurou/soudankikan1.html>



## 発達障がい

左図は、主な発達障がい名とその特性についてです〔引用：発達障害情報・支援センター、<http://www.rehab.go.jp/ddis/発達障害を理解する/発達障害とは/>、（最終閲覧2020-1-20）〕。広汎性発達障がいの群は、対人関係・社会性の障がい、コミュニケーションの障がい、パターン化した行動等を特性としています。精神症状が見られる際には治療が必要ですが、発達障がいの特性については、周囲の環境の調整が必要になることが多いと言われています。パターン化した行動がひきこもり行動を維持していることも考えられるため、支援者からのアクションが必要な場合もありそうです。



## 生活保護受給者以外の方で、 経済的に困りの方が相談をしたいとき

### ■札幌市生活就労支援センター ステップ

(家族相談可、巡回相談あり、訪問不可、診断不要)

「なかなか仕事が見つからず、生活が苦しい」「生活に困っているが、どこに相談したらよいか分からない」など、さまざまな理由により、仕事や生活に困りごとを抱えている方のための相談窓口です。広く相談を受け付け、経済的な自立へ向けた就労支援を中心に、一人ひとりの状況に合わせた支援を行います。

<https://www.city.sapporo.jp/fukushi-guide/step.html>

## 本人の症状や状態、診断について相談したいとき

### ■医療機関の一例 大通公園メンタルクリニック

(家族相談可、訪問・往診 要相談)

精神症状やそれに伴う生活上の生きづらさに対して、医師、看護師、ソーシャルワーカーなどの多職種でチームを組み、その人の問題に応じて、地域の多機関と連携しながら地域生活の改善に取り組みます。ご本人の来院が難しければ、ご自宅への訪問や、支援者、ご家族からの相談も可能です。全ての医療機関で担えるわけではなく、医師以外のスタッフを配置していない場合もありますので、詳しくはお問い合わせください。

## 一般的な情報や行政サービスを知りたいとき

### ■お住いの区の区役所保健福祉課

お住いの区役所にも相談ができます。

## 発達障がいのある方にかかわる機関が サポートをしてほしいとき

### ■札幌市自閉症・発達障がい支援センター おがる

(家族相談可、機関への訪問のみ可、診断不要)

札幌市にお住まいの発達障がいのある子ども、成人の方への支援体制を整えていくことを業務としています。

支援会議に参加させていただいたり、コンサルテーションさせていただくなかで、発達障がいのある方を支えている皆さんと一緒に、支援やサポート体制を考えていきます。また、様々な研修を通して発達障がいの普及啓発を目指しています。

<https://www.harunire.or.jp/ogaru/>



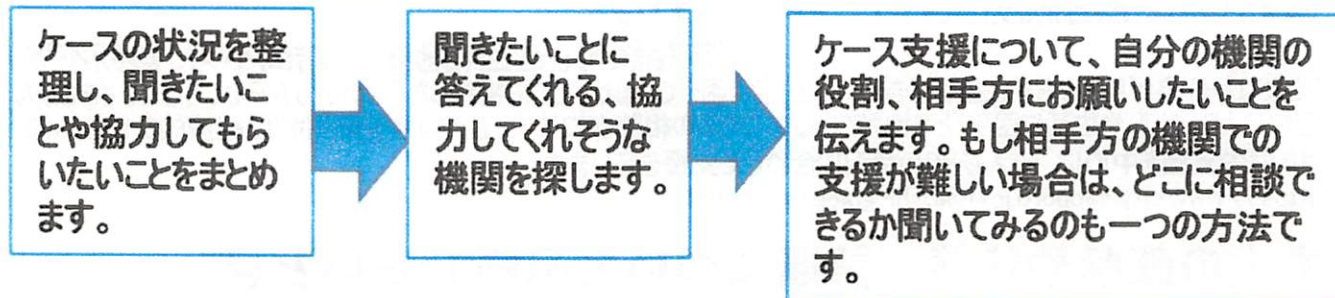
### ひきこもり

ひきこもりとは、「様々な要因の結果として社会的参加(義務教育を含む就学、非常勤職を含む就労、家庭外での交友など)を回避し、原則的には6ヶ月以上にわたって概ね家庭にとどまり続けている状態(他者と交わらない形での外出をしてもよい)を指す現象概念」のことです。(ひきこもりの評価・支援に関するガイドライン 齋藤万比古、他 2010)。

ひきこもりは、統合失調症は除外すると前述のガイドラインでは明記されていますが、未診断の統合失調症が含まれる可能性を排除しないことから、統合失調症などの精神疾患を主診断とするもの、自閉スペクトラム症などの発達障がいを主診断とするもの、上記の2つは有せず、パーソナリティ障がい(ないしはその傾向)や神経症圏などを主診断とするものの3つに大きく分類されています(重複している場合もあります)。



## 【相談の流れについて】



発達障がいを背景とした中高年の引きこもりケースを1か所の機関で支えることは難しく、複数の機関がそれぞれの機能を活かした役割分担と連携をしていくことが大切です。

## 【その他の機関情報】

### 発達障害・情報支援センター

発達障がいについてHPで学ぶことができます  
<http://www.rehab.go.jp/ddis/>

### 札幌こころのセンター

こころの健康にかかわる相談は「こころの健康づくり電話相談」でお受けしており、相談の内容に応じて適切な関係機関の情報提供を行っています。

<http://www.city.sapporo.jp/eisei/gyomu/seisin/counseling/index.html>



### 札幌市発達障害児者地域生活支援モデル事業

発達障がい児者及びその家族が地域で安心して暮らしていけるよう、発達障がい児者の特性を踏まえた支援手法を開発し、全国への普及につなげることを目的とする国庫補助事業。札幌市では平成25年より実施しています。



### 企画・推進委員会

モデル事業の実施にあたっては、関係機関等による「企画・推進委員会」を設置し、発達障がい者の実態について広く把握をした上で、事業を適正かつ円滑に実施できる実施者を選定するとともに、事業の実施計画、評価、取りまとめを行うことになっています。この研修についても企画・推進委員会にて検討し、開催しています。